

第3学年「図画工作」学習指導案

授業者 堀井 武彦 中出 律子

2月18日(木) 2階プレイルーム 9:00~9:40

1 題材名 やさしさにつつまれて(造形遊び)

2 題材について

図画工作部では、〈もの・場所・人・こと〉との対話を題材設定の基盤に置いている。本題材は、薄葉紙の感触(=ものとの対話)と広がりある空間に働きかける(=場所との対話)ことに着目し、子どもたちが身体全体の感覚を働かせて表現する楽しさを味わう活動である。

今年度、本校は、自明とされる価値やことがらの問い直しを主題に、主に言語を使った対話で「てつがくすること」を探求してきた。それに対して、造形活動の中心的な表現言語は形と色である。そして、それらを発信する源に形や色に基づいたイメージがある。本題材では、このイメージを想起させる源として、触覚に働きかける薄葉紙の感触と開放的なプレイルームの雰囲気誘因性に着目した。特に場所との対話には、子どもが固定的造形表現に留まることなく、身に纏ったり、はためかせるように動いたりなどの身体を使う動的な活動を促すことも期待できると考えた。これらを通しては、子どもたちは、イメージを捉えて主題を掴んでいくことになる。本題材の場合は、「題名」としての主題だけでなく、新しい活動の閃きや発想、構想も活動の主題となる。そして、この過程における造形的思考こそが図画工作の学びにおける「てつがくすること」につながるのではないかと考えている。加えて、本題材は、ファミリーを中心とした協働的交流の活動の場を規定しているの、他者との視覚的コミュニケーションを補完する時に、言語活動が有効に機能することになる。

3 学習指導計画(全2時間/1時間目)

- (1) 薄葉紙の感触を味わう(対話する)ことを楽しむ。
- (2) 丸めたり、結んだり、身に包んだり、はためかせたりして薄葉紙の造形的操作を試す。
- (3) ファミリーの仲間と協働して発想したり、構想したりして表現できることをともに考える。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

身体全体の感覚を働かせて薄葉紙の感触を味わいながら、開放的な空間でグループで協働的な造形遊びをすることを楽しむ。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 薄葉紙の材質に関心をもつ。 2 まず、個人で薄葉紙の感触を味わう。 ・手触り、肌触り、身にまとう、はためかせながら動き回るなどの活動を楽しむ。 3 ファミリーの仲間と何ができるか話し合いながら様々な表現を試そうとする。 ・独立した造形物を並べたり、つないだりする。 ・衣服に見立て、自分の身体を包む。 <停滞傾向と捉えられる活動の姿> ・ファミリーの仲間から離れ、個人の活動に執着したり、走り回ってふざけたりする。	<input type="checkbox"/> 薄葉紙の特徴を紹介する。 ・丸める、ねじる、結ぶ、はためかせるなどの材質を強調する示範によって、材料への関心を促す。 <input type="checkbox"/> 安全に配慮しつつ、共感的に子どもの活動を受容する言葉かけをする(T2と分担する)。 <input type="checkbox"/> ファミリーで協働的な活動を考えて活動することを提案する。 ・薄葉紙は三カ所に置き、一枚ずつ使う約束を徹底する。 ・独立した立体に収斂させるだけでなく、衣服に見立てたり、空間を覆ってみたりなどの活動に広げる可能性を、機に応じて問いかけてみる。 ・自分の活動とファミリーの活動の関連性を考えるように問いかけてみる。